

協伸商会穀物レポート [KKR] Vol. 049

(2022/23年度 USDA米国農務省 8月12日発表)

[ハイライト]

① シカゴ穀物相場は小麦/コーンは小康状態、大豆は16ドル台の高値水準維持

シカゴ相場は北米/EU等における天候とUKR問題の動向等を背景に神経質な動きである。注目の小麦はロシアのUKR侵攻直後\$14.25/bu(3/7)の史上最高値まで暴騰、6月までは\$12前後を維持したがその後米国/EUの冬小麦の収穫進展/ロシアの3年連続の大豊作予想/UKR産小麦の輸出再開期待等から現在は\$8前後の小康状態。一方、大豆は生産/消費とも好調だが米国中西部の高温乾燥懸念等から高値に張り付いている。(現在は\$14台まで軟化)

② UKRの穀物生産/輸出は若干改善見通し、黒海輸出回廊は再開したが正常化にはまだほど遠い

UKRコーン生産/輸出見通しは先月より改善し生産は25⇒30、輸出は9⇒12.5百万トとなった。前年実績の其々6割前後であるが好転。小麦輸出は100万ト増。7/22 UKR/ロシア/トルコ/国連の4者はUKRの黒海からの穀物輸出再開にむけ合意。8/1 オデーサから第一船(コーン26千ト)がレバノン向け出航。現在まで21隻が輸出許可(大半は2~3万トン級/約8割がコーン積)を得て、今週初めて小麦船がエチオピア向けに出航したがまだ「焼け石に水」状態であり本格的再開にはほど遠い。現在UKRは小麦収穫の最中、9月以降はコーン。現状では期末在庫は16百万ト迄積み上がる予想。

③ 小麦/コーン/食用油等基礎的食料資材の高騰は止まらず、今後とも食品価格へのコスト転嫁は必至

6月「FAO食料価格指数」の前月比較では肉類(123⇒125)/乳製品(144⇒150)/穀物(174⇒166)/植物油(299⇒212)となり全体では若干下落(158⇒154)したが、この1月以降の末端価格反映は13%程度と推計、今後更なる小売価格転嫁は避けられない。当面政府は10月からの小麦売渡価格を据え置きとしたが効果は？

1、世界穀物需給の概要(大豆を除く)

① 生産量:	2,762百万ト	(前年比1.2%	減↓	、	前月比0.1%	減↓)
② 消費量:	2,783百万ト	(前年比0.7%	減↓	、	前月比0.1%	増↑)
③ 貿易量:	492百万ト	(前年比3.7%	減↓	、	前月比1.0%	増↑)

2、とうもろこし

① 生産量:	1,180百万ト	(前年比3.2%	減↓	、	前月比0.5%	減↓)
② 消費量:	1,185百万ト	(前年比1.3%	減↓	、	前月比0.0%	→)
③ 貿易量:	183百万ト	(前年比7.4%	減↓	、	前月比1.7%	増↑)

④ 概況: コーン生産量は、EUでの異常な熱波/乾燥と米国の乾燥による単収引き下げ等により全体では前月比6百万ト減少。特にEUは6百万トの深刻な減産、逆にUKRは5百万ト増産となった。消費量は米国/EUで弱含みとなり全体では若干減少となった。貿易量は前年最高値よりは低いがUKR数量回復により前月よりは3百万ト増加し183百万トの見通し。

期末在庫306百万ト(前月比6百万ト減)/在庫率25.9%。うち中国204百万ト(67%)

⑤ 価格: \$6.10/Bu (前年\$5.55/Bu / 前月\$7.55/Bu) と前月比\$1.45 下落。

3、小麦

① 生産量:	780百万ト	(前年比0.0%	→	、	前月比1.0%	増↑)
② 消費量:	789百万ト	(前年比0.6%	減↓	、	前月比0.6%	増↑)
③ 貿易量:	209百万ト	(前年比3.0%	増↑	、	前月比1.5%	増↑)

④ 概況: 小麦生産量は、ロシア8.8百万トと史上最高見通し、豪州/カナダも好調なことから全体では前月比8百万ト増加。消費量もロシア/豪州で飼料用が増等で4百万ト増。貿易量も同様に4百万ト増の2億トを超え、全体的に底上げが顕著である。期末在庫は267百万トと微減/在庫率33.9%と減少。うち中国144百万ト(54%)

⑤ 価格: \$7.76/Bu (前年\$7.19/Bu / 前月\$8.31/Bu) と前月比\$0.55 下落。

4、大豆

① 生産量:	393百万ト	(前年比11.4%	増↑	、	前月比0.4%	増↑)
② 消費量:	378百万ト	(前年比4.2%	増↑	、	前月比0.1%	増↑)
③ 貿易量:	169百万ト	(前年比10.3%	増↑	、	前月比0.1%	増↑)

④ 概況: 大豆生産量は、主産国のBRA/ARG/米国で好調であり前年比で11%以上増加し4億トの大体に迫りつつある。消費量も中国が1億トを大きく超える見通しである。この状況から貿易量は約1.7億トとなり全体のパイが膨らんでいる。

期末在庫は101百万トと微増/在庫率は消費増のため26.8%と微減。約55百万トがBRA/ARG在庫。

⑤ 価格: \$16.15/Bu (前年\$14.22/Bu / 前月\$16.26/Bu) と前月比\$0.11 下落。

世界の穀物・大豆等の需給

2022年8月12日
米農務省発表： 単位100万トン

主要穀物世界の需給								
		生産量	総供給量	貿易量	総使用量	期末在庫量		
全穀物	2019/20	2,725	3,543	488	2,741	801		
	2020/21	2,797	3,599	506	2,799	799		
	2021/22	7月	2,764	3,569	487	2,781	788	
	2022/23	8月	2,762	3,561	492	2,783	778	
小麦	2019/20	774	1,072	203	782	290		
	2020/21	779	1,070	203	793	276		
	2021/22	7月	772	1,052	205	784	268	
	2022/23	8月	780	1,056	209	789	267	
粗粒穀物 (とうもろこし等) 注1	2019/20	1,441	1,779	234	1,456	323		
	2020/21	1,505	1,827	248	1,489	338		
	2021/22	7月	1,477	1,816	227	1,478	338	
	2022/23	8月	1,469	1,808	228	1,476	332	
米	2019/20	509	691	51	504	188		
	2020/21	514	702	55	517	185		
	2021/22	7月	515	701	55	519	183	
	2022/23	8月	512	697	55	519	179	
大豆	2019/20	368	463	165	363	100		
	2020/21	353	453	153	363	90		
	2021/22	7月	391	480	169	378	102	
	2022/23	8月	393	483	169	378	104	

世界のとうもろこし需給							
		期首在庫	生産量	輸入量	国内計	輸出量	期末在庫量
世界計	7月	312.28	1,185.90	177.08	1,185.24	182.57	312.94
	8月	311.84	1,179.61	179.78	1,184.77	185.62	306.68
アメリカ	7月	38.35	368.44	0.64	309.13	60.96	37.33
	8月	38.86	364.73	0.64	308.62	60.33	35.27
アルゼンチン	7月	1.49	55.00	0.01	14.00	41.00	1.49
	8月	1.49	55.00	0.01	14.00	41.00	1.49
ブラジル	7月	4.65	126.00	1.30	77.00	47.00	7.95
	8月	4.65	126.00	1.30	77.00	47.00	7.95
EU	7月	8.68	68.00	16.00	79.40	4.70	8.58
	8月	8.66	60.00	19.00	77.40	2.70	7.56
日本	7月	1.38	0.01	15.20	15.20	0.00	1.39
	8月	1.38	0.01	15.20	15.20	0.00	1.39
中国	7月	210.24	271.00	18.00	295.00	0.02	204.22
	8月	210.24	271.00	18.00	295.00	0.02	204.22
ロシア	7月	0.93	14.50	0.05	10.90	3.80	0.78
	8月	0.93	15.00	0.05	11.20	4.00	0.78
ウクライナ	7月	6.77	25.00	0.00	10.70	9.00	12.07
	8月	6.27	30.00	0.00	11.70	12.50	12.07

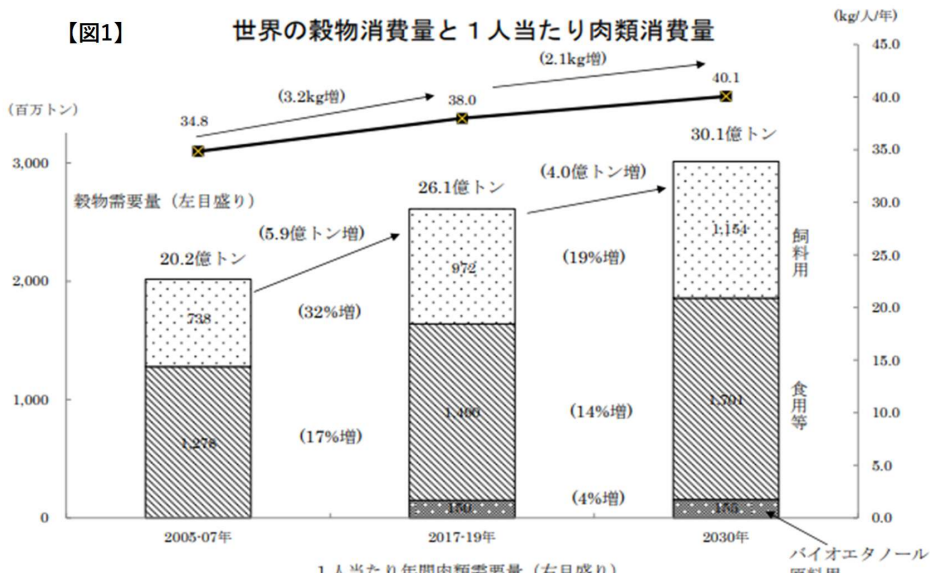
世界の大豆需給							
		期首在庫	生産量	輸入量	国内計	輸出量	期末在庫量
世界計	7月	88.73	391.40	166.12	377.75	168.89	99.61
	8月	89.73	392.79	166.22	378.25	169.08	101.41
アメリカ	7月	5.85	122.61	0.41	64.49	58.11	6.27
	8月	6.13	123.30	0.41	64.53	58.65	6.66
アルゼンチン	7月	22.10	51.00	4.80	48.25	4.70	24.95
	8月	22.45	51.00	4.80	48.25	4.30	25.70
ブラジル	7月	22.46	149.00	0.75	52.85	89.00	30.36
	8月	22.71	149.00	0.75	53.60	89.00	29.86
中国	7月	30.74	17.50	98.00	115.59	0.10	30.56
	8月	30.74	18.40	98.00	115.59	0.10	31.46
EU	7月	0.96	3.00	15.00	17.93	0.22	0.81
	8月	1.13	2.57	15.20	17.53	0.22	1.15

世界の小麦需給							
		期首在庫	生産量	輸入量	国内計	輸出量	期末在庫量
世界計	7月	280.10	771.64	202.74	784.22	205.47	267.52
	8月	276.35	779.60	203.89	788.60	208.65	267.34
アメリカ	7月	17.96	48.47	2.99	30.26	21.77	17.39
	8月	17.96	48.52	2.99	30.43	22.45	16.60
アルゼンチン	7月	1.43	19.50	0.01	6.35	13.50	1.08
	8月	1.78	19.00	0.01	6.35	13.00	1.43
オーストラリア	7月	4.83	30.00	0.20	7.55	24.00	3.48
	8月	3.46	33.00	0.20	8.55	25.00	3.11
カナダ	7月	3.42	34.00	0.60	9.10	25.00	3.92
	8月	3.42	35.00	0.60	9.10	26.00	3.92
EU	7月	14.36	134.10	5.50	107.50	35.50	10.96
	8月	13.08	132.10	5.50	107.00	33.50	10.18
中国	7月	141.92	135.00	9.50	144.00	0.90	141.52
	8月	141.76	138.00	9.50	144.00	0.90	144.36
インド	7月	21.47	106.00	0.03	104.50	6.50	16.49
	8月	19.50	103.00	0.03	104.50	6.50	11.53
ロシア	7月	12.09	81.50	0.30	42.25	40.00	11.64
	8月	12.09	88.00	0.30	44.00	42.00	14.39
ウクライナ	7月	5.84	19.50	0.10	10.20	10.00	5.24
	8月	5.84	19.50	0.10	10.20	11.00	4.24

脚注1：粗粒穀物はとうもろこし、マイロ、大麦、燕麦、ライ麦等の計で約80%がとうもろこしである。
脚注2：年度は穀物年度。地域・作物により異なる。例：アメリカ産とうもろこし、大豆：9月～8月。

世界の食品産業と穀物需給(5)

- ① 「世界の食品産業」シリーズ(2)~(4)で世界と日本の「Top100」企業を特集したが、今回は**マクロ的に世界の穀物需給見通し**を品目別に見ていきたい。農林水産政策研究所は2021年3月「2030年における世界食料需給見通し」を発表したがこの分析は将来の人口増加/経済成長をベースとし**各品目の需給動向を収量/収穫面積推移の要素を入れて数値化したものである**。ただし、基準年2017-19年から数年の穀物需給の伸びは大きく、とうもろこし/大豆等の品目によっては**既に2030年見通しレベルに近付いている**点は留意する必要がある。また同時に、新型コロナ/世界気候変動/地域紛争等による**穀物需給変動**やバイオ燃料あるいは「代替肉」普及等による**生産/消費品目の変動**には注意を要する。
- ② 全体の穀物需要見通し(大豆除く)は、[図1]の通りであるが伸びは幾分鈍化するものの世界人口増や新興国の食用/飼料用需要拡大等から2005-07年の20.2億トンを約10億トン増加し2030年には30.1億トンと**遂に30億トンの大台に乗る見通し**である。この間(①2005-07⇒②2017-19⇒③2030年)の世界全体の収穫面積/単収の推移は、収穫面積6.7⇒7.0⇒6.9億ha、単収3.0⇒3.7⇒4.3ト/haとなっており面積は微減だが、**③単収は①比143%と大きく増加し穀物増産の最大の要因**となっている。
- ③ 次に「表1-表4」は、小麦/とうもろこし/米/大豆の各品目需給見通しであるが、総じて**需給は拡大すると同時に地域間の輸出入量はそれ以上に増大し海上荷動量は確実に増える見通し**である。特に、輸出国と輸入国の**色分けはより明確**になりつつある。小麦は、世界的な需要拡大によって生産量が増加し2030年には2017-19年比**115%の868百万トンまで増大**する見通し。需要はアジア+66/アフリカ+22/中東+12百万トン増加し、**この地域の純輸入量が拡大する構図が特徴**(アジア60/アフリカ64百万トン)。また国別には、ロシアの生産/輸出が2030年には88/43、同じくUKRが33/24百万トンとされ国際輸出市場での存在が大きいがロシアのUKR侵略によるUKRの**インフラ再建と黒海物流確保**がカギである。
- ④ とうもろこしは、世界的な人口増と食肉消費拡大によって生産/消費量とも2030年には2017-19年比**116%の13億トン近くまで増大**する見込みであるが、需要は小麦と同様アジア+65/アフリカ+26百万トン拡大し、純輸入量もアジア67(内ベトナム/中国各10)/アフリカ34/中東25百万トンと増加する見込みである。一方、輸出サイドではBRA/UKRの生産拡大に伴い其々46/31百万トンと米国に次ぐ数量を予測されているが**UKRについてはロシア撤退と農業分野の戦後復興如何**にかかっている。エタノール需要については米国が世界最大の生産量(380百万トン)の約1/3を投入しているが、ガソリン混合比率はほぼ上限にきており同国での需要は横ばいとみられる。コメは、2030年生産/消費量が基準年比**113%の560百万トン**となっているが、**アジアが生産量の9割/消費量の8割**を占めており極めてローカル色の強い品目というのが特徴である。輸出はアジアがインド12/タイ10/ベトナム8の合計約30百万トン、輸入はアフリカ21/中東8百万トンが主流である。一方、UKR問題による小麦価格高騰により**相対的に低価格のコメが注目**されている。
- ⑤ 大豆は「油糧種子」として穀物とは範疇が違うが、近年最も生産量が拡大し海上貿易比率の高い(今年度1.7億トン、44%)品目である。大豆の2030年生産/消費量は2015-17年度比**116%(約6千万トン増)の404百万トンと4億トンの大台**を超える見通しである。その背景は中国が大豆輸入政策に大転換したことと世界的な蛋白/油脂需要拡大にあると言える。消費はアジア(中国)+24/中南米+18百万トンと拡大し、生産は北米(米国)+12/中南米(BRA/ARG)+35百万トンと増加し消費拡大に対応しており、**他品目と比べ生産国(米国/BRA/ARG)と消費国(中国/EU)の構図がより明確**である。また、別添「需給表」の通り現状は既にこの2030年見通しにほぼ近づいている。今後、大豆需要は大豆を原料とした「代替肉」の普及や「バイオディーゼル」の**生産拡大見通し**から増大する可能性が高く、注目する必要がある。この2030年見通しを概観すると、大豆を含めた穀物生産/消費量は34億トン、海上荷動量は小麦2.5/とうもろこし2.4/コメ0.6/粗粒穀物0.6/大豆2.0/それに大豆粕0.8/ナタネ0.3億トンと**現状より約2億トン増の合計9億トンを超える可能性**がある。(続く)



【表1】 小麦に関する地域別予測結果 (単位:百万トン)

	生産量		消費量		純輸出入(入)量	
	2017-19年	2030年	2017-19年	2030年	2017-19年	2030年
世界合計	752.6	868.0	744.6	868.7	0.0	0.0
北米	82.0	88.9	38.9	41.3	45.0	47.7
中南米	31.1	38.2	40.7	46.2	-9.6	-8.0
オセアニア	18.3	23.0	9.3	10.7	9.8	12.4
アジア	292.7	337.7	332.3	398.2	-51.2	-60.1
中東	41.6	51.1	61.2	73.8	-19.6	-22.6
欧州	259.4	293.2	183.6	197.7	77.0	95.6
アフリカ	27.3	35.9	78.2	100.3	-50.9	-64.4
(参考)						
EU	147.6	163.0	124.7	134.4	22.8	28.6
ロシア	76.8	88.3	41.2	44.8	36.8	43.4
米国	50.3	52.5	29.7	30.5	21.8	22.1
ウクライナ	27.1	33.1	9.1	9.2	18.2	23.9
中国	133.1	142.9	128.7	148.7	-4.9	-5.4
インド	100.7	115.8	95.8	115.6	0.1	0.3

【表2】 とうもろこしに関する地域別予測結果 (単位:百万トン)

	生産量		消費量		純輸出入(入)量	
	2017-19年	2030年	2017-19年	2030年	2017-19年	2030年
世界合計	1106.7	1277.7	1123.2	1278.8	0.0	0.0
北米	374.2	396.0	323.1	336.4	51.6	59.9
中南米	181.9	234.9	158.5	190.7	29.0	44.2
オセアニア	0.5	0.6	0.6	0.6	-0.1	0.0
アジア	341.3	403.0	405.3	470.6	-54.8	-66.8
中東	7.5	9.4	27.9	34.1	-20.6	-24.7
欧州	119.9	140.3	106.0	119.2	14.1	21.1
アフリカ	81.4	93.4	101.7	127.0	-19.1	-33.6
(参考)						
米国	360.4	380.4	308.6	320.3	52.1	60.3
ブラジル	95.0	130.0	66.5	83.6	31.3	46.3
アルゼンチン	44.3	51.0	13.2	15.1	32.2	35.9
ウクライナ	31.9	37.5	5.9	6.5	26.3	31.1
EU	64.3	72.7	82.6	91.7	-18.1	-19.0
中国	260.8	308.6	278.2	319.2	-7.8	-9.8

【表3】 米に関する地域別予測結果 (単位:百万トン)

	生産量		消費量		純輸出入(入)量	
	2017-19年	2030年	2017-19年	2030年	2017-19年	2030年
世界合計	495.6	561.2	485.1	560.4	0.0	0.0
北米	6.2	6.9	4.9	5.4	1.5	1.5
中南米	18.1	21.6	19.2	21.7	-0.9	-0.1
オセアニア	0.2	0.5	0.4	0.5	-0.2	0.0
アジア	443.4	497.5	409.1	466.5	22.8	30.1
中東	2.7	3.2	9.3	11.1	-6.5	-7.9
欧州	2.7	2.8	4.9	5.2	-2.2	-2.4
アフリカ	22.3	28.7	37.3	49.9	-14.6	-21.2
(参考)						
インド	115.9	131.9	100.0	119.3	11.1	12.7
タイ	19.5	22.7	11.3	12.2	8.1	10.5
ベトナム	27.4	33.0	21.3	25.4	6.1	7.6
中国	148.0	150.3	143.6	151.2	-1.6	-1.9
インドネシア	35.1	42.7	36.3	44.5	-1.2	-1.8
バングラデシュ	34.5	41.9	35.5	43.8	-1.2	-1.9

【表4】 大豆に関する地域別予測結果 (単位:百万トン)

	生産量		消費量		純輸出入(入)量	
	2017-19年	2030年	2017-19年	2030年	2017-19年	2030年
世界合計	348.7	404.2	343.1	404.4	0.0	0.0
北米	119.5	131.2	62.8	74.4	54.1	56.9
中南米	185.7	220.8	106.3	124.9	83.8	95.8
オセアニア	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
アジア	29.1	35.2	136.2	160.4	-114.1	-125.0
中東	0.3	0.3	6.1	6.8	-5.9	-6.5
欧州	11.6	13.8	25.0	30.4	-13.6	-16.5
アフリカ	2.5	2.7	6.7	7.4	-4.3	-4.7
(参考)						
ブラジル	123.0	148.5	46.2	55.4	81.1	92.7
米国	112.4	123.0	59.9	70.6	50.0	52.5
アルゼンチン	47.6	54.3	45.7	52.6	2.1	2.1
インド	9.5	11.3	9.8	11.8	-0.1	-0.6
中国	18.1	22.2	106.0	124.4	-95.3	-102.0
EU	2.6	2.9	16.7	20.7	-14.4	-17.7

資料：農林水産政策研究所「2030年における世界の食料需給見通し」